【事例紹介】当院手術→リハビリ→退院

回復期リハビリ病棟に大腿骨転子部骨折で入院されました。入院当初は手術は行わず保存加療という意向でしたが、強い痛みもあり起きているのも大変でした。そこで、当院主治医と御家族で改めて相談し、当院で手術を実施しました。手術翌日よりリハビリを再開し、手術の痛みの影響から最初は離床も大変でしたが、本人のがんばりとスタッフの連携で、徐々に離床できるようになり身体機能も回復していきました。その後、痛みは無くなり歩行器を使用し歩行ができるようになりました。骨折前よりも元気に動けるようになり、入院前から生活されていた施設に退院することができました。

リハビリも頑張りました!!

痛くなりました(^^)

豊田えいせい病院
リハビリ新聞
2020年
2月25日
第10号

回復期のカンファレンス

カンファレンスは、1人の患者さんに関わる多くの専門職が意見を出し合い、今後の方針や課題の共有する場として機能しています。回復期リハビリ病棟ではリハビリでできるようになったことを生活に活かすためにどうするか話し合っています。実際の生活に活かされなければ、せっかくできるようになったことも身につきません。

回復期では病棟での過ごし方を患者さんの能力に合わせて変更していきます。現状の把握と今後の目標を共有するため、カンファレンスは2週間毎に開いています。「できるADL」を「しているADL」へ、そして退院後の生活を想定した動作の獲得を目指します。病棟での過ごし方は退院後の生活に直結するため、重要視しています。

カンファレンスの様子(左)　リハ職での相談(右)
一人の患者を担当する多職種が集まっている

運動を始めよう　～リハビリ小ネタ～

今回は運動の取り組み方について説明します。

最近では手軽な運動から機器を使った運動まで様々なものが紹介されています。しかし、運動は大事だと分かっていても実際にやるのは難しいのが現状です。リハビリ専門職もそのような場面に出くわすことが多くあります。そのような時、我々はまず日常生活の中で始められる簡単な運動から始めることお勧めしています。また、数をこなすだけでなく、少ない数でも正しい方法で集中してやることを指導します。手軽で続けられそうなものをまずはやってみて、段々その人に合わせた運動を指導するようにしています。

簡単な運動から始める
↓
少ない数でも
正しい方法でやる
↓
その人に合った運動をやる

訪問リハビリの運動指導の風景と手順

豊田えいせい病院訪問リハビリは
「**シズケア＊かけはし**」に
登録しています！

豊田えいせい病院　診療技術部
回復期リハビリ科　TEL：0538-34-6123　FAX：0538-34-6231
療　養リハビリ科　回復期リハビリ科と共通
通　所リハビリ科　TEL：0538-34-6223　FAX：0538-34-6222
訪　問リハビリ科　TEL：0538-34-6137　FAX：0538-34-6231